

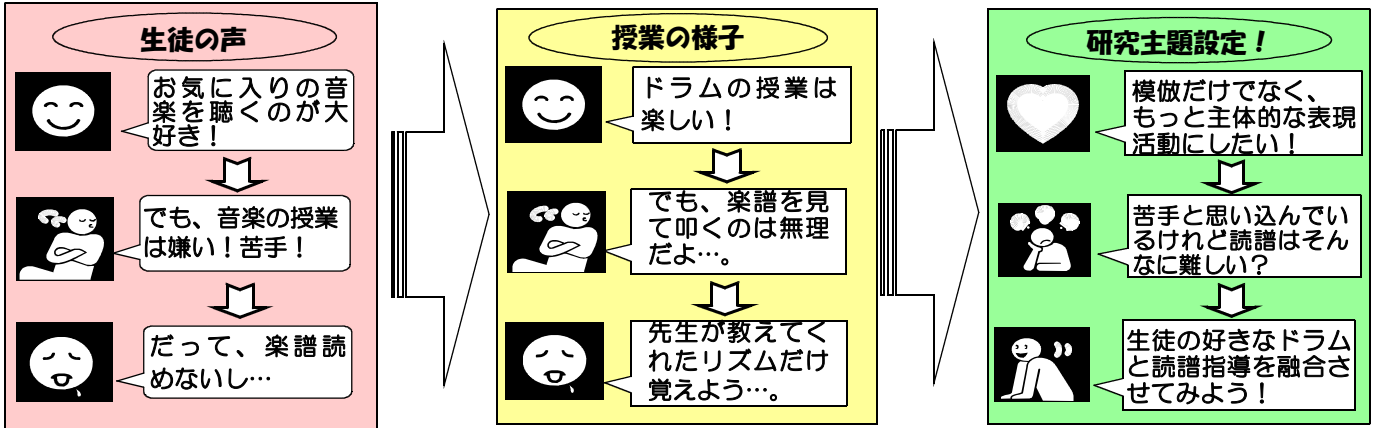
# 高等学校芸術科「音楽I」における自ら考え主体的に表現活動に取り組める生徒の育成

—— ドラムセットを用いた器楽活動にリズム譜の読譜指導を取り入れて ——

音楽班 井田有希子 (高等学校教諭)

## 主題設定の理由

…生徒の声や授業の様子から今回の研究主題を設定しました。

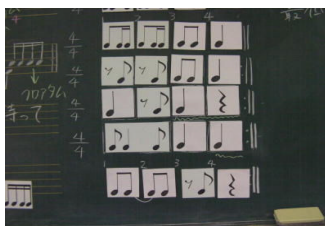
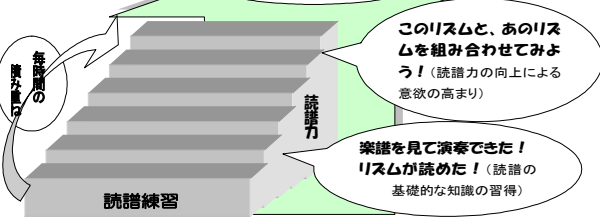


## 目指す生徒像

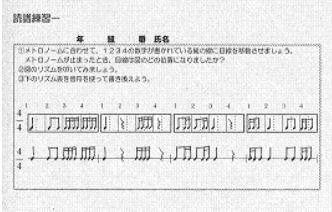
指示されたリズムや奏法を覚えて再現するだけの受け身の活動に終始してしまわず、楽譜を活用して、自分自身で考えながら練習したり、曲に合うパターンを組み合わせたりと、自ら意欲を持って積極的に表現活動に取り組める生徒

自ら考え主体的に表現活動に取り組める生徒

### 研究構想図



音符カードによる読譜練習



4小節の読譜練習プリント

## 研究の概要

毎回の授業に読譜指導を導入!

- ①様々な音符カードを並べ替えて1小節のリズム打ちをする
- ②読譜練習プリントで4小節の読譜&リズム打ちをする

楽譜への苦手意識を払拭し、基礎的な読譜力を培うことができるのではないか

自分自身で楽譜を読み取って練習を進めたり、自分なりのリズム構成を工夫したりと、主体的に取り組む表現活動につながるのではないか

ドラムのビート練習前にも、必ず楽譜で確認!

- ①読譜練習を生かして、右手・左手・足に分けて、叩くビートのリズム譜を確認する
- ②ドラム譜を使って視覚的に各パートの縦のラインを確認し、タイミングを掴みやすくする

## 研究のまとめ

今回の学習成果を生かして今後は、主体的な自己表現活動=自分らしさを大切にする表現活動へとつなげていきたい。

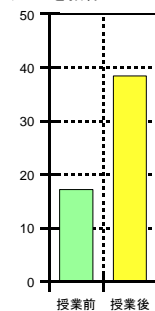
・学習前後で読譜力調査を実施した結果、図①のような変化が見られ、読譜力が向上した。

・到達度チェック表の合格印の数は、読譜練習の時間によりドラムの実質練習時間が減ったものの、図②のように前年度と比べ増加した。楽譜を見ながら自ら練習を進め、自発的にチェックを受けたことがわかった。

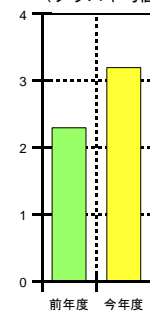
・学習後の感想では「自分で組み立てた楽譜を自分で叩くのは楽しかった」「初めは難しかったけれど楽譜を見ながら練習するうちにできる!」と思えて頑張れた」といった記入もあり、多くの生徒が、読譜学習を生かしながら自ら考え主体的に表現活動に取り組めた。

～今回の研究で目指した生徒の姿を見ることができた～

図① 読譜力の数値変化 (50を指標として)



図② 合格印の獲得個数 (クラス平均値)



### ～研究の課題点～

・読譜の時間を確保するために、実技練習に取れる時間が少なくなってしまった。この題材で主体的な活動をするためにどこまでの読譜力を育てることが必要かを明確にし、時間を有効に使えるようにしたい。

・できてはいるけれど、到達度チェックを受けるなどのアピールができない生徒への支援や評価について検討していきたい。